

福岡県の主な農産物の生産状況

平成 29 年 9 月 15 日現在

(専技情報より抜粋)

◇普通期水稲◇

「夢つくし」の収穫は9月1日頃から始まり、収穫最盛期は平年より2日程度早い、9月9～18日頃の見込みです。収量は平年並み、品質は登熟期間の高温で平年よりやや劣っています。「元気つくし」の収穫は9月20日～30日頃、「ヒノヒカリ」の収穫は10月4～10日頃で、共に、7月からの高温、多照の影響で出穂が早まり、平年に比べ1～3日早い見込みです。8月中旬の降雨と高温の影響で「夢つくし」、「元気つくし」を中心にもみ枯細菌病が発生しています。トビイロウンカの発生は多くなっていますので、発生状況を確認し、対策を徹底しましょう。熟期が「元気つくし」以降の品種は、間断かん水を実施し早期落水を避けましょう。収穫時期は出穂後の積算気温と黄褐色籾比率、籾水分を確認して決定し、刈り遅れないよう留意しましょう。

◇大豆◇

開花期は8月下旬で平年並み～3日早くなっています。生育は8月上旬までの少雨により抑制されていましたが、8月中旬以降、適度に降雨があり回復しました。現在、莢伸長～粒肥大期となっています。今後、雨が続いた場合、紫斑病の発生が懸念されます。一部、ハスモンヨトウの食害が多いほ場が見られます。紫斑病の対策を徹底し、ハスモンヨトウとカメムシ類は、発生動向を把握して適期に対策を実施しましょう。雑草の発生が多いほ場では、早めに抜き取りを行いましょ。

◇イチゴ◇

苗の生育は、6月中旬までの乾燥と6月下旬から7月の断続的な降雨の影響で、初期の発根と展葉が遅れ、やや充実不足となっています。早期作型の花芽分化は比較的順調で、定植は中山間地域で9月上旬から開始、平坦地は9月中旬から順次すすんでいます。根傷みや、炭疽病の発生がみられています。花芽分化確認後の計画的な定植を徹底しましょう。炭疽病発生苗の除去、ハダニ類、チョウ目害虫などの対策を徹底しましょう。

◇イチジク◇

夏季の高温・多日照の影響で収穫はやや前進化しており、無加温ハウスでは終盤、露地ではピークを迎え、出荷も順調に行われています。作柄は全般的に良好で、8月は糖度が高く食味良好。一部、高温による果実の成熟異常、流通段階での傷みやカビが発生しています。腐敗、カビ、裂果が増加傾向であるため、適期収穫、適正な選果、予冷等鮮度保持対策を図りましょ。ショウジョウバエの誘発を防ぐため過熟果や腐

敗果は徹底して除去しましょう。収穫が終了した施設栽培では、過乾燥による根傷みを防止するため灌水を徹底しましょう。

◇電照ギク◇

夏秋ギク品種「精の一世」「フローラル優香」の彼岸出荷は、花芽分化時の高温の影響で奇形花が発生しています。12月出荷作型は、9月上旬から順次定植中です。一部でカメムシ類の被害が発生しています。白さび病を本圃に持ち込まないよう親株への対策を徹底しましょう。夜蛾類の対策を徹底しましょう。ウイルス感染を防ぐため、親株ほ場もアザミウマ類の対策を徹底しましょう。

◇トルコギキョウ◇

夏季出荷作型は順調に出荷され、概ね8月下旬で出荷終了しました。出荷量は7～8月の気候が安定したことから増加しました。秋出荷作型（10～11月出荷）の生育は、定植後の高温で平年に比べて早くなっていますが、日照が豊富であったことから順調です。夜蛾類の発生が多く、斑点病が一部で発生しています。春出荷作型の定植は始まっています。無駄芽や不要な側枝は早めにかぎとり、主茎の充実に努めましょう。斑点病、夜蛾類及びウイルス病を媒介するアザミウマ類やコナジラミ類の対策を徹底しましょう。

◇畜産◇

8月の豚枝肉価格は例年下がりますが、今年は全国的な出荷頭数減の影響により高値が持続しました。

鶏卵価格は下げ基調で推移し、過去5年平均を下回る水準です。

肉牛枝肉価格は長期の高止まり傾向から、和牛去勢、省令価格ともに前月、前年同時期より下げました。

暑熱は緩和されるも秋雨期で湿度が増すため、引き続き送風等の暑熱対策は継続すると共に、病気発生を予防するための農場衛生管理を徹底しましょう。サシバエ対策も励行しましょう。